SUAC 北村理恵 × 川根本町

SUAC=Shizuoka University of Art and Culture（静岡文化芸術大学）

夏休み食育スクール

▲おいしそうな「つみれ団子スープ」

▲みんなで協力して作りました！

8月24日から28日の5日間、平成27年度インターンシップ研修が行われ、今年は静岡文化芸術大学の北村理恵さん（21歳）が役場の仕事を体験した。役場の4課7室で研修を受け、広報情報室では取材、ホームページアップ・広報紙作成研修を体験。大学では、本町の「千年の学校」で講師を務めたり、川根本町SUAC地域デザイン交流事業コーディネーターの経験を持つ、同大図書館・情報センター長の黒田宏治教授（社会・地域デザイン）のゼミに所属している。

まちづくりに必要な要素として「若者、よそ者、ばか者」が大切だと言われるが、北村さんの目に川根本町はどう映ったのか。若い感性にヒントはないか探った。

―取材を経験して学んだことは？

私は、静岡文化芸術大学デザイン学部生産造形学科の3年生です。大学ではデザイン学部に在籍、グラフィックデザインに興味があります。将来はデザイン関係の職を目指し、勉強中です。今回は、8月24日に生活改善センターで行われた「夏休み食育スクール」の取材に同行しました。ミラーレスカメラの扱いは経験ありますが、一眼レフカメラは初めてでうまく撮れませんでした。インタビューも初めての経験で、あらかじめ質問を用意していなかったので、焦ってしまって話を聞き出すことができませんでした。また、作業者の邪魔にならないように立ち位置を気にしたり、取材文も第3者目線が大事だと気付き、良い経験になりました。

▼完成ページを手にする北村理恵さん

―作成ページのコンセプトは？

私が抱く夏休みの記憶と言えば「絵日記」。思い出の1ページを意識して作りました。中身についてもフォントは丸めで親しみやすく、クレヨン調で手書き感を出しました。デザインを学ぶ過程で習得したスキルを駆使して作り上げました。思い描いたレイアウトで作成することができましたが、文章が入るデザインは初めてだったので難しかったです。

―研修で習得したものは？

広報活動に用いる媒体は多様にあり、アプローチの方法も無限だと感じています。まちづくりも〝ならでは〟を活かすことが大切だと思います。川根本町らしいデザインとは、現在の町のイメージの良さをさらに伸ばし、住んでいる人も来訪者にとっても居心地がいいものであって欲しいと思います。川根本町の人は優しく、人の魅力はまちの魅力につながっていると思います。まちづくりとデザインの関係はとても深く、デザインがまちづくりに果たす役割や可能性を信じて、いつか川根本町に恩返しができるように頑張ります。

夏休み食育スクール開催

8月24日

今年も食推協（川根本町健康づくり食生活推進協議会）主催の「夏休み食育スクール」が開催されました。

このスクールは、「食のありがたみを、自分で料理を作って食べて片付けることを通して学ぶ」ことを目的として毎年、小学生の夏休み期間中に文化会館と生活改善センターの2カ所にて行われています。

生活改善センターでは、12人の小学生たちが食推協会員の皆さんに教えてもらいながら、協力して4つのメニューを作りました。コーンご飯、みそグラタン、つみれ団子スープ、トマトゼリー…みんな積極的に手を動かしながら、楽しく調理や準備、片づけをしていきました。

参加者の河畑真央くん（中央小学校6年）は、「1年生のころから毎年参加しています。食育スクールへの参加で、料理がもっと好きになった」とうれしそうに話しました。同会副会長の澤村泰子さんは、「食育スクールでは、作って食べるだけではなく、片付けることも大切にしています。作った後、調理道具をそのままにしておくと、動き回る時に危ないからです。安全に料理をするためには、こまめに片付けることが大切です。自分で作って食べる喜び、誰かのために料理を作ることの喜びを感じてもらえたらありがたいです」と話しました。子どもたちは、作った料理を食べて笑顔。みんなで作ってみんなで食べるごはんはやっぱりおいしいものですね。

平等に盛りつけていきます

おいしいね！

▲北村理恵さんが「絵日記」をイメージして完成させました。
若者の感性と理恵さんの人柄が表れた優しい雰囲気のページに仕上がりました。